令和２年度　北越高等学校　学校自己評価表（結果）

学　校　運　営　計　画

《 学 校 運 営 方 針 》	《建学の精神》 「報恩感謝」「勤労奉仕」 《教育目標》 「知・徳・体の調和のとれた 心身ともに健康で 人間性豊かな有意な人材を育成する。」 《教育方針》 1　学習内容を精選し、基礎的、基本的な学習の徹底した指導によって、学力の充実を図る。 2　生徒の適性、能力に応じたコースや科目の選択を通して、行き届いた進路指導を行うとともに、実践的な学力を養成する。 3　挨拶の励行等、人間としてのマナー・礼儀を重視し、規律ある生活習慣と態度を身につける。 4　部活動、特別活動を充実させ、健全な身体と進取の気性を養う。 《育てたい生徒像》 「社会との関わりの中で、自他の幸せと成長の為に自ら行動できる人」
建学の精神、教育目標、教育方針に基づいた学校運営	

令和元年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
《成果》 ○　学習指導の充実により国公立大45人合格、就職希望100％達成。 ○　生徒指導の充実により生徒指導件数が前年比58％減少した。 ○　部活動指導等の充実により、ｲﾝﾀｰﾊｲ７競技31人、国体に7競技16人,選抜大会に５競技51名が出場した。また、自然科学部が奨励賞を受賞、書道部が各種展覧会で入選、吹奏楽部が各種コンクールで金賞・銀賞等を獲得した。 《課題》 ・学習指導の充実による進路希望実現 ・大学進学率の向上 ・スマートフォン等の使用に関する情報モラル教育の充実・徹底 ・広報活動（内容）の充実と入試制度の周知	Ⅰ　確かな学力の向上	・「分かる授業」の実施 ・主体的、対話的で深い学びに向けた授業改善 ・新しい大学入試に向けた確かな学力の定着
	Ⅱ　基本的な生活習慣の確立	・一日の生活リズムと学習習慣の確立 ・基本的な食習慣の確立 ・健康指導の充実
	Ⅲ　規範意識の醸成	・自他を大切にする指導の徹底 ・校則の遵守 ・挨拶指導の充実
	Ⅳ　部活動、特別活動の充実	・合理的、科学的手法に基づいた部活動指導 ・生徒・保護者から信頼される部活動運営 ・生徒一人一人の成長が実感できる部活動

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
１学年	建学の精神を体現する生徒の育成 および北越キャリア教育の充実	オリエンテーション行事、セカンドホーム登録、ジョブラーニングなどを通し、自己を理解し地域や世界を知り	A	A	A
		将来どのように社会貢献したいかを明確にする。	B		
	生徒の基本的生活習慣の確立	無遅刻、無欠席を目標に、システム手帳などを活用しながら生活習慣、学習習慣の確立を図る。	A	A	
	生徒の基礎学力の充実および学力の向上	授業１時間１時間を大切にする姿勢を養い、北越塾、土曜講座、進学講座への参加を促進す。	B	B	
		学習活動に積極的に取り組みお互いに学び合う雰囲気を醸成する。	B		
２学年	建学の精神を体現する生徒の育成 および北越キャリア教育の充実	新潟クエスト、1dayキャンパス、研修旅行、キャンパスツアーなどを通じて、地域や世界に視野を向け、 活動を経験する中で、将来どのような分野で社会に貢献していくべきか、考えを深めさせる。	A	A	A
	生徒の基本的生活習慣の確立	挨拶の励行、遅刻欠席の減少、モラルマナーの遵守を指導する。	B	B	
		スコラ手帳を活用し、「時間を意識する」「考える」「書く」「振り返る」を習慣化する。	B		
	生徒の基礎学力の充実および学力の向上	明確な目標や志望のもと、授業を大切にし、土曜講座、長期休業中の講座、北越塾、模擬試験、各種英語検定 などを活用し、学習活動に集中し、お互いに成長しあう雰囲気を醸成する。	A	A	
３学年	建学の精神を体現する生徒の育成 および北越キャリア教育の充実	学校行事や部活動を通して，率先して行動する，仲間と協働する姿勢を身につける。	A	A	A
		ボランティア活動への積極的参加を促す。社会的事象に関心を持ち，探究し，プレゼンテーションを実施する。	B		
	生徒の基本的生活習慣の確立	遅刻・欠席の最小化，皆勤者の増加。	B	B	
		スコラ手帳を活用し、「時間を意識する」「考える」「書く」「振り返る」を習慣化する。	B		
	生徒の基礎学力の充実および学力の向上	明確な志望のもと，授業，土曜講座，北越塾，模擬試験，各種検定を活用し，成長しあう雰囲気を醸成する。	A	A	
		国公立大学合格者45名以上，大学等進学率73％以上。	A		
教務	生徒の学力向上のため、 生徒の学習環境を充実させる	年間計画を立てる際に、授業時数が確保できている。	A	A	A
		教室の学習環境を整備し、授業に集中して取り組める環境をつくる。	A		
	生徒の学力向上のため、 教員研修を充実させる	公開授業、研究授業を行い、また、年に2回の研修を通して教員がより良い授業を目指している。	B	A	
		教科部会を毎月開催し、年間を通して授業改善が行われている。	A		
	特別活動を充実させる	年間計画を立てる際に、特別活動を計画的に配置する。	B	A	
		行事を円滑に実施できるよう、調整・計画をする。	A		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	時間の厳守（学年と連携して遅刻防止の推進、遅刻指導の徹底）	B	B	B
		正しい服装の徹底（学年・クラスでの推進・各授業での指導、服装頭髪指導の実施）	B		
	生活・交通安全指導の徹底	交通ルールの遵守（通学指導、登下校指導の徹底）	B	B	
		携帯電話・スマートフォン等の利用マナー教育の徹底（ＳＮＳ使用時の情報モラルなど）	B		
	学校生活に対する悩みを持つ生徒への対応	いじめの未然防止と早期発見の徹底（いじめのない学校づくりの推進）	A	A	
		学年・保健衛生部・臨床心理カウンセラーとの連携（生徒の悩みに早期に対応し、不登校等の予防を図る）	A		
進路指導	生徒の進路への意識の向上を図るとともに 学習意欲を喚起する。	キャリア教育をより一層充実させ、自己啓発ができるよう指導する。	A	A	A
		計画的に進路志望調査を実施し、担任との面談を通じて進路意識の啓発を行う。	A		
	大学の内容や入試について適切に情報提供を行う。	生徒に対する進路ガイダンスや進路保護者会を適宜実施し、適切な情報提供に努める。	A	A	
		ＬＨＲ等や休業中に大学研究を行って、自分自身の進路について深く考えられるようにする。	B		
	大学等進学率７５％以上 国公立大学合格者５０名以上を目指す。	各教科の学習指導に効果的な情報提供を行い、コースの実態に応じた適切な学習指導ができるように努める。	B	B	
		基礎学力の定着を図るとともに、講座等を適切に運営し、志望校合格のための学力の向上に努める。	B		
入試広報	広報媒体を作成し、中学校・受験生・保護者に確実に届ける	学校案内やオープンスクールのポスターを発行し、新潟市内の全中学校に配布する。	A	A	A
		作成した広報媒体をＨＰやオープンスクールなどで活用する。	A		
	オープンスクールや高校説明会、入試説明会、部活動体験にて適切な情報を提供する	オープンスクールを２回、入試説明会を３回、部活動体験を最低１回実施する。	A	A	
		入試説明会などを通じて、入試制度や北越の特色などを分かりやすく伝える。	A		
	入試業務の運営を適切に行う	入試業務を適切に分担し、円滑に運営できるような業務内容の改善・見直しに努める。	A	A	
		中学校・受験生・保護者に誤った情報が届くようなミスを起こさずに確実に業務を遂行する。	B		

評価項目	具体的目標			具体的方策	評価		
教科	国語	読解力を身につけさせる。		現代文…評論、随筆、小説等の文章の論理構成、心情、主題などを理解させる。	B	B	B
				古典…古文、漢文の文法、句法を習得させ、内容を理解させる。	B		
		表現力を身につけさせる。		要旨や主題をまとめる力、自分の意見をまとめる力を養成する。	B	B	
				小論文試験にも対応できるような構成を意識した表現を指導する。	B		
		進路決定に向けた実力を身につけさせる。		授業や小テストによって語彙力、漢字力、読解力など国語の基礎力を養成する。	B	B	
				大学入試センター試験（共通テスト）において全国平均点を上回る学力を涵養する。	B		
	地歴・公民	科目に興味を持たせる授業を行う		研究授業・授業改善研修を実施し、教科の取り組みと課題を共有する	B	A	A
				各科目、授業評価アンケートでの授業に積極的に参加しているの項目で肯定的回答８割以上にする	A		
		基礎的・基本的知識を定着させる		定期考査での赤点者をゼロにする	B	A	
				授業評価アンケートでの学習内容の難易度の項目で肯定的回答８割以上にする	A		
		実践的学力の向上を養う		進学選抜クラス・特進コースの校外模擬試験の各科目の平均偏差値を５０以上にする	B	B	
				一般入試受験生の大学入学共通テストの各科目の平均点が全国平均を上回るようにする	B		
	数学	授業内容の充実		研究授業・授業改善研修を実施し、教科の取り組みと課題を共有する。	B	B	B
				各学年、各科目の指導方針、指導計画に沿った適切な授業を展開する。	B		
		基礎学力の定着		課題や小テストを適切に実施する。	A	A	
				コース・クラスに応じた授業を展開する。	A		
		実践的学力の向上		校外模擬試験における偏差値を各学年の上位3割の生徒が50以上、また上位1割の生徒が54以上にする。	C	B	
				大学受験を目指す生徒に対する個別指導を充実させる。	B		
	理科	授業内容を充実させる		各科目の指導方針、指導計画に沿った適切な授業を展開する。	B	B	B
				実験や観察を取り入れ、生徒の好奇心を引き出す。	B		
				教員同士で授業公開を行い、授業力の向上を図る。	A		
		学力に応じた適切な指導を行う		各コース・各クラスに応じた授業を展開する。	A	A	
				生徒の学力・進路希望に応じた課題を工夫する。	A		
		実践力を身につけさせる		模試や入試問題の過去問を通して、応用力を身につけさせる。	B	B	
	保健体育	学習集団づくり		互いに認め合いながら学習ができる学習集団づくりができていた。	B	B	A
		目標の設定		授業の系統性を考えシラバスに位置づけ狙いや目標を生徒に示した上で臨んだ。	B	B	
				生徒の実態を十分に考慮して授業を構成するなど計画をたてて行った。	A		
				授業のねらいや目標が達成できた。	B		
		教材・教具の工夫		準備した教材・教具や授業の展開のしかたは適切であったか。	A	A	
		発問・指導の適切さ		生徒の理解を助けるように発問や指示を適切に行った。	A	A	
		活動の場の構成		生徒は意欲的に学習に取り組んでいた。	A	A	
				授業に集中しやすい環境や雰囲気が形成できた。	B		
				一方的な説明だけではなく生徒が主体的に活動する場面を設けた。	A		
				生徒の発表などに対して意欲を引き出すように働きかけた。	B		
		安全への配慮		生徒一人ひとりの健康状況を把握し事故がおきないように努めたか。	A	A	
		個の学習の成立		生徒一人ひとりの学習状況の把握に努め必要な支援を行った。	B	B	
	英語	基礎力を強化する		中学校既習内容（文法・単語）を定着させる。	B	B	A
				教科書の内容を通じて学習方法を確立させる。	B		
				ALTを活用してコミュニケーション活動を充実させる。	B		
		応用力、運用力を強化する		英語を通して論理的思考力を養う。	B	A	
				コミュニケーション活動やプレゼンテーションを通して表現力、対話力を養う。	A		
				外部試験、模試を利用して英語の運用力を高める。	A		
	芸術	音楽	音を媒体としたコミュニケーション能力を向上させる	基本的な技能を身につけせ、創造的かつふさわしい方法で演奏表現する力を身につけさせる。	B	A	A
				実技発表・楽曲鑑賞において、互いによさを見いだしたり、自分なりの解釈を伝える力を養う。	A		
		美術	表現力を身につけ、自らの考えを発信する力を身につけさせる	用具の適切な使い方を理解させ、表現する力を身につけさせる。	A	A	
				作品鑑賞行い、自らの考えを持ち他者と共有する力を身につけさせる。	A		
		書道	基本的な技能を身につけさせる	多様な作品に取り組ませ、作品の性質を理解した制作活動を図る。	A	A	
				鑑賞を活かした技術指導を行う。	B		
	家庭	わかりやすい授業を実施する		授業進度、指導内容を綿密に打ち合わせる。	A	A	A
				実習や実験を通じて生徒が主体的に学び、体験できる授業をつくる。	B		
		基礎学力の定着をはかる		小テストや学習ノートなどで基礎事項の理解と定着をはかる。	A	A	
	情報	情報活用の実践力を養う		課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することができる。	A	A	A
				情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造することができ、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達することができる。	B		
		情報の科学的な理解ができる		情報活用の基礎となる情報手段の特性を理解することができる。	A	A	
				情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法を理解することができる。	A		
		情報社会に参画する態度を育てる		社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解することができる。	B	B	
				情報モラルの必要性に対する責任について考えることができ、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度が身につく。	B		
総　合　評　価						A	

※評価　　A：目標達成　B：ほぼ目標達成　C：やや目標未達成　D：目標未達成